# 鶴の便り

夕鶴の里資料館報
平成31年2月20日
第　98号
発行　夕鶴の里
TEL　47-5800

## 漆山小学校 出前養成講座 発表会

漆山小学校での出前語り部養成講座の発表会が二月十二日と十四日に開催されました。

講座の初回から自分が語る民話を覚えて来ていたり、講師の先生に積極的に質問したりするなど児童の皆さんは積極的に取り組んでいました。

発表会は班ごとにそれぞれ教室に分かれ、受講した児童は先輩、後輩や児童のご家族の方を前に堂々と語りを披露していました。

講座を通して児童たちは人前で話す力を身に付けたようです。このような行事は漆山小学校ならではで、児童たちの心に大人になっても残るいい経験になったのではないでしょうか。

## 現代の名工 情野幸子さんを迎えての座談会

二月九日に現代の名工である情野幸子さんを迎えて座談会を開催しました。

情野さんはご自身が和裁を習った時代は師匠の技術を見て盗むのが当たり前だったという現代との教育の違いやこれから和裁を学びたい方に「和裁の技術はこれからの時代も必ず役に立つ」と励ましの言葉をいただきました。

沢山の方にご来場いただき、座談会は大盛況でした。ありがとうございました。

## 啓翁桜

今年も漆山郵便局さんより、啓翁桜をいただきありがとうございました。ようやく枝の先の方が咲き始めました。満開まではもう少しかかるようです。

## お雛様

資料館三階でお雛様の展示を行っております！特別展と併せてご覧ください。

## 特別展三女学校の裁縫教育展開催中

当館では二月二日より特別展「三女学校の裁縫教育展」を開催しています。開催初日より展示を観にご来館いただきありがとうございます。

今回の展示では三校それぞれの特色ある裁縫資料を観ることができます。展示を通して大正から昭和の女子教育について知っていただければと思います。

展示は三月三十日までです。是非ご来館ください。

## 展示の見どころ

一般庶民の間で洋服が着られるようになったのは大正時代からです。

山形で普及しだすのは昭和十年代と大都市と比べ遅いですが、自分の子供を活発に活動させられるようにこのような洋服が作られました。

裁縫精華女学校　女児簡単服

## 裁縫嫌いが悩むこと

いつの時代も人は悩みを抱えて生きているようで、大正時代の読売新聞には次のような相談が寄せられています。

**問** 私は十八歳になる女です。が、生来裁縫が大嫌いで、ひまさえあれば小説や雑誌などに親しんでいた罰はテキメン、もはや婚期も迫っているのに、自分の着物ひとつまとめられません。

やっと目が覚めてまいりました。

しかし、身から出たさびとはいえ、今さら裁縫の稽古に行って一ツ身から教えてもらうのも気恥ずかしく、初心の者にも裁縫の裁ち方および縫い方をていねいに書いた本はないでしょうか。

もしありますれば、発行所をお知らせ願います。

（やよい）

**答** 書物で裁縫の稽古をすることは、困難だと思います。六十の手習いということもありますから、今から教師についてお習いなすったほうが良いと思います。

さようなことを恥ずかしがるようではまだだめです。

随分と辛口な回答ですが、この時代の女性は結婚するまでに裁縫が出来るということが最低限の教養でした。なぜなら、昔は現在のように服屋は無く、着る服は自分で作るしかない時代だったからです。

果たして相談者のやよいさんは結婚することができたのでしょうか。気になるところです。

相談に出てくる一ツ身は今回の特別展で展示しています。ご来館頂き、当時の女性の裁縫技術をご覧いただければと思います。

九里裁縫女学校　一ツ身

〈参考文献〉
・「三女学校の裁縫教育展」解説資料
・『大正時代の身の上相談』